

部長会議付議事案書（報告）

（令和5年2月13日）

提案課名 消防管理課

報告者名 加藤 和博

事案名	救急医療支援システム導入による救急活動の効率化（実証実験）について	資料 有
提案趣旨	<p>高齢化の進行、救急業務の高度化及び多様化を背景とし、救急活動時間の延伸による救命効果の低下及び救急需要の増大に伴う労務負担の増加がみられます。</p> <p>このような状況を改善するために、傷病者情報の伝達を迅速・確実に行うことが可能となり、かつ労務負担の軽減につながるICT技術（以下、「救急隊連携システム」という。）の導入を目指し、令和5年度は実証実験を行いますので報告するものです。</p>	
概要	<p>1 概要（詳細は別紙のとおり） 救急隊連携システムは、救急現場にて救急隊が情報を端末（モバイル端末等）へ入力することにより、医療機関へ電話連絡と並行し、傷病者情報を文字情報及び画像で送信して情報を共有することができるシステムです。</p> <p>2 実証実験期間 令和5年4月中旬から令和6年3月29日（金）まで</p> <p>3 実証実験の内容 (1) 救急隊連携システムの使用率 (2) 救急隊連携システムを活用した場合の現場活動時間及び収容依頼時間の変化 (3) 救急隊連携システムを活用した救急活動記録票の作成及び作業時間の変化 (4) 救急隊連携システムの課題抽出</p> <p>4 システム使用隊 全救急隊（6隊）</p> <p>5 協力救急医療機関 二次救急診療事業に参画する市内医療機関へ説明を行い、同意を得た医療機関と傷病者情報の伝達を実施するもの</p>	
経過	<p>令和4年10月 秦野市消防本部消防管理課による検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者によるシステム説明会 ・実証実験中の藤沢市消防局及び鎌倉市消防本部の視察 ・実証実験の内容、期待される効果、運用方法等の検討 	
今後の進め方	<p>令和5年2月 マニュアル策定</p> <p>〃 秦野伊勢原医師会及び協力救急医療機関への説明</p> <p>〃 はだのICT推進会議本部会へ事業の報告</p> <p>〃 議員連絡会で報告</p> <p>〃 事業者と実証実験に関する協定の締結</p> <p>令和5年4月以降 実証実験運用開始</p> <p>実証実験運用開始後、短縮される時間等費用対効果を分析のうえ、導入についての検討を進めます。</p>	

出動

救急現場
(傷病者接触時)

医療機関連絡時

医療機関

帰署



①情報収集

- ・メモ用紙へ現場情報を記入
- ・紙ベースでの情報収集

②傷病者情報伝達

- ・主訴、現病歴、既往歴、掛かり付け病院、服用薬等を携帯電話にて口頭連絡
- ・搬送を断られた場合、2件目以降の医療機関も同様の情報を口頭連絡

③傷病者情報引継ぎ

- ・手書きの救急活動記録票を作成
- ・救急活動記録票での引継ぎ
- ・医師の署名
- ・複写用紙を医療機関へ

④活動終了後の事務処理

- ・消防OAへデータを手作業で入力
- ・出動報告書の作成



①情報収集

- ・免許証・健康保険証・お薬手帳等をOCR(光学文字認識)などにより自動データ化
- ・心電図・事故の状況を撮影

②傷病者情報伝達

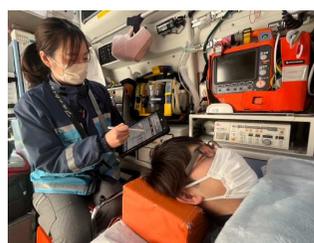
- ・モバイル端末にてデータ送信
- ・パソコンでリアルタイムに傷病者情報の確認
- ・傷病者の受入れ可否の早期判断

③傷病者情報引継ぎ

- ・救急車到着前に傷病者受入れの適切な準備
- ・検査や治療の早期開始
- ・傷病者情報をカルテへ取り込み
- ・ペーパーレス化

④活動終了後の事務処理

- ・モバイル端末内データの自動取り込みによる出動報告書の作成
- ・作業負担軽減



現状

システム導入後